

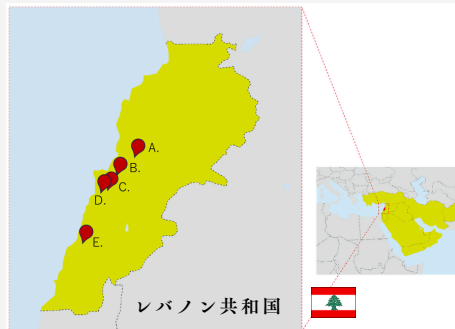
活動報告 2022

レバノン赤十字社・日本赤十字社

診療所の水・衛生環境改善事業

支援の背景

2011年のシリア紛争の勃発から10年以上が経過しています。現在も150万人以上のシリア難民が隣国レバノンでの避難生活を続けています。昨今の経済危機により医薬品など生活必需品の高騰が著しいレバノンでは、難民にもホストコミュニティの人びとにも深刻な影響が出ています。レバノン赤十字社は国内で診療所を運営し、困窮した人びとの健康な暮らしを支えられるよう活動しており、日本赤十字社はその後押しをしています。



事業概要

2022年は支援の優先度の高い5つの診療所（A. クフル診療所、B. ジャル・エル・ディブ診療所、C. フォーン・エル・シエバック診療所、D. タリク・エル・ジェディエ診療所、E. サイダ診療所）についてトイレや手洗い場の修繕、貯水タンクやゴミ箱、室内照明の電源確保のためのソーラーパネルの設置が行われました。水源の品質検査も実施し、汚染の種類を特定することで適切な処理を検討・実施し、基準を満たした水が提供されるようになったことを確認しました。修繕の状況は以下の通りです。

水まわりの修繕



貯水タンクの設置や、蛇口の修繕により、診療所利用者が安全な水へのアクセスできるようになりました。

トイレの修繕



修繕によって診療所を利用する地域住民は清潔なトイレを使えるようになりました。

電気配線の改善



これまでむき出しだった電気配線を整備し、診療所の設備の安全性が高まりました。

ソーラーパネルの設置



電力不足で暗いことが多かった診療所。ソーラーパネルの設置によって電力の確保ができるようになりました。

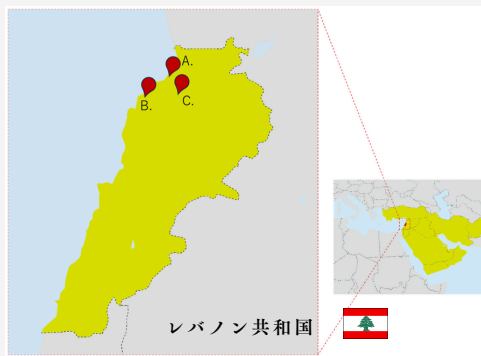
活動報告 2023

レバノン赤十字社・日本赤十字社

診療所の運営支援・拡大事業

事業概要

2022年に引き続き、レバノン国内で暮らす脆弱な状況にある人びとが健康に暮らせるよう、レバノン赤十字社が運営する36の診療所のうち、支援ニーズの高い3つの診療所（A.トリポリ診療所、B.バトロン診療所、C.ブシャレ診療所）の運営支援を行いました。具体的には施設の修繕および整備、診療所の運営に欠かせない医療従事者の雇用、医薬品や医療用品の適切な調達が行えるようITを含めたシステム整備等を行いました。



活動結果

トリポリ診療所とバトロン診療所における施設の修繕及び整備、計画した医療従事者の雇用が概ね完了し、利用者数が増えたとの報告があります。ブシャレ診療所は農村部に位置していることから、医療従事者の雇用が難航していましたが、2024年中に雇用できる見込みです。

現地からの感謝の声

レバノン赤十字社が運営する診療所を利用しています。わたしたち地域住民にとってこの診療所は大事な存在で、信頼性も高いです。今日は薬をもらいにきました。レバノンではいま、経済危機の影響で医薬品が高騰しており、自分で購入するのが日に日に難しくなっています。こちらの診療所では必要な薬について無償で処方して頂き、大変感謝しています。

<レバノン・トリポリ住民のマルワさん>



レバノン共和国について

近年、中東のレバノンでは深刻な経済危機に直面しており、人びとは食糧価格の高騰や失業に対して不安を抱えながら生活しています。生活必需品や医薬品、衛生用品なども高騰し、それらの購入が日に日に難しくなっています。新型コロナウイルスの流行や2020年のベイルート港の爆発も追い打ちをかけ、電気・医療といった基本的な国のサービスにも影響が出ています。2022年にはコレラの発生も確認され、給水システムの稼働時間の制約や、下水処理施設が完全には稼働しない中、公衆衛生上のリスクが高まりました。国家予算が不足する中、医療制度も崩れつつあり、医療費も国民がほぼ自己負担する状況が続いています。全ての人びとが医療サービスにアクセスできるよう、支援が必要です。



■ 日赤の中東人道危機救援事業 ■

- ・ WEBページは[こちら](#)です。
- ・ ご寄付は[こちら](#)から承っています。



問い合わせ先

電話番号：03-3437-7088
メール：kokusai-kyuen@jrc.or.jp
担当：国際救援課 事業係 中東担当

